

令和4年度 国立若狭湾青少年自然の家 教育事業
親子で！「なれずし作り」(R4.11.5(土)～11.6(日))

◆ 目的

- ・親子が、SDGsの視点の要素を盛り込みながら、若狭地域の伝統的な食文化に触れることを通して、自分と身近な地域の魅力を再発見する。
- ・地域食材「なれずし作り」を通して、海の豊かさや森の豊かさを知り、大切にしていこうとする気持ちを育てる。【持続可能な消費と生産 (12)】【海の豊かさを守ろう (14)】

◆ 参加実績

7家族 24名
 未就学児 1名
 小学生 9名
 中学生 2名
 保護者 12名
 福井県5、大阪府1、埼玉県1



◆ 日程

	11月5日(土)	11月6日(日)
午前	若狭湾の食文化「なれずし」を作ろう 講話・体験：なれずし作り(なれずし工房) 講師：森下佐彦氏【民宿佐助】	若狭湾の食文化「なれずし」を作ろう 体験：なれずし作り(なれずし工房) 講師：森下佐彦氏【民宿佐助】 海の様子を知ろう ビーチコーミング(小浜市田島海岸)
昼食	若狭湾の食文化「へしこ」を食べよう へしこうどん、焼き鯖(民宿佐助)	若狭湾の食文化「なれずし」を食べよう へしこちらし なれずし(民宿佐助)
午後	海の豊かさを感じよう 海の体験活動(シーカヤック)	我が家のSDGs発表会 解散
夜	海からの恵みで作品を作ろう(貝殻ろうそく) 保護者交流会・研修会	



◆ 成果

天候にも恵まれ、全行程を事故・怪我がなく終えることができた。参加者のほとんどが、若狭地区からの参加であり、若狭の食文化に興味をもって参加された方々であった。「へしこ」「なれずし」を全く知らずに申し込まれた方もあったが、この地域の魅力を感じ、伝統文化について興味を持つことができたようである。(アンケート・聞き取り)

アンケートでは、100%満足の結果となり、事業が成功に終わったことは何よりであった。

今回、目的の若狭地域の食文化を知ってもらうため、昼食にへしこやなれずしを食べるプログラムを入れた。参加者は「おいしい」「食べやすかった」「塩辛かった」などの感想があり、この土地ならではの食を味わってもらうことができた。また、シーカヤックやビーチコーミングの活動を入れたことで、現地の海の様子や地域の課題について知ることができ、きれいな海を保つことの難しさを肌で感じてもらえ、SDGs 12、14に寄与したプログラムが提供できた。

◆参加者の声

- ・ 「へしこ」から「なれずし」が出来るまでに長い時間がかかっているし、昔から作られていたものを、今の世代に繋げて、日本の伝統文化を大切にしていけないといけないなと思いました。(中3)
- ・ それぞれの地方の文化にふれることができ、伝統を守っていく人々を見ることができた。(小5)
- ・ とても楽しかったです。最後の行程が一番楽しかったです。先生にほめられたのでうれしかったです。(小5)
- ・ やり方がとても難しかったです。味は少しおいしかったです。(小3)
- ・ 海は良くない思い出が多かったのですが、シーカヤックが思い出を楽しいものにしてくれました。(中3)
- ・ 人間が海洋汚染を進めていると感じました。人の意識、心が変わらないとSDGsも達成することができないのかなと思いました。(中3)
- ・ 浜だけでもこんなにもゴミがあるのに、海にはもっとあると考えると、環境問題は深刻化しているなあと感じました。(中2)
- ・ 自分たちができるSDGsを少しずつでもやるのが大事だと思う。(小5)
- ・ 自分たちの責任を守りたいと思いました。(小5)
- ・ 貝殻はきれいな物がたくさんあったので、ゴミがなかったらきれいなのにと思いました。(小5)

◆保護者の声

- ・ 「なれずし」作りを体験したりお話を聞いたりして、これは「へしこ」作りから体験しなくては！と思いました。「こんな知恵のたくさん詰まったものがあるんだ」と感じました。
- ・ 佐助さんの話が地元に対する思いが入っていて、感じる事ができたと思う。
- ・ 昔の人が生の鯖を保存食にして食べることを考え出した事にびっくりし、その地域に根づく食文化があるんだなと思いました。
- ・ 「なれずし」の作り方に関して、長期間をかけて完成させることも、この活動に参加しないと理解することがなかったと思います。また、山と海と川の自然がある魅力を感じることができました。
- ・ 観光に来るだけでは知ることが出来ない経験が出来ました。
- ・ 地域の魅力、自然の魅力、文化の魅力を感じることができました。
- ・ 次女は、4月に参加した、へしこ作り・なれずし作り体験を経験してから、へしこが大好きになり、今日へしこがいい！と言うようになりました。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・ 「なれずしを作ろう」では、講師の森下佐彦氏と打合せをし、低学年から大人まで、参加者が理解しやすい内容・行程となるよう計画した。今回、小浜市田鳥区を集合・解散場所としたことで、移動距離・時間を短縮することができ、時間にゆとりを持った活動となった。
- ・ 「海の豊かさを感じよう」では、天候にも恵まれてよかった。参加者もシーカヤックを楽しみにされている方が多かったので、満足度が高かったと思われる。
- ・ 夜は親子別プログラムとし、親には交流の場と「子供の成長を支える体験活動について考える場」を設けることで、体験活動の普及と啓発を行うことができた。
- ・ 「海の様子を知ろう」ではビーチコーミングを行い、気になった漂着物についてみんなで話し合う場を設けた。地元の人から、地域の現状と課題について写真やアップサイクルグッズを用いて話してもらうことで、より身近なこととして捉えることができたように思う。最後に家族でできることについて話し合ってもらい「家族でできるSDGs宣言」を作成し、発表会を行った。

